



Washington Japanese Language School 2022年10月22日 発行 第22号

ワシントン日本語学校

はなみずき

mail:wjls@wjls.org <http://www.wjls.org/>



ワシントン日本語学校
校長 神戸 昭夫

[ワシントン日本語学校事務局]
HOT LINE (301)962-7415
TEL (301)962-7410
FAX (301)962-7411

「がんばれ、がんばれ。まけるな、まけるな。」今日は後期始業日です。

今日は後期始業日。運動会のように、全校が一堂に会し、集会を持つことができません。朝、各教室であらかじめ録画しておいたビデオを流しました。こんな話をしました。(幼稚部については、2クラスを訪問して、入学式の時にお話したことを再度確認しました。)

- ① 運動会では、紅組も白組も応援の中で、「がんばれ、がんばれ、負けるな、負けるな」と大きな声を出して友達を応援していた。
- ② 今日からの後期、皆さん一人一人が「がんばれ、がんばれ。負けるな、負けるな」と自分を応援しながら、勉強に取り組んでほしい。
- ③ スライドを使って「私を知っていますか」「こんな話にでてきます」「伝えたいこと」を紹介。
- ④ この人たちは、小1から中3までの道徳の教科書に載っている。担任の先生からプリントを分けていただくので読んでほしい。大谷翔平さんのことについては、今日の「はなみずき」に載せたので、家の人と一緒に読んでほしい。

	わたしをしていますか	こんなはなしです	つたえたいこと
小1	ななちゃん	やれば できるんだ	がんばってつづける
小2	のぞみさん	こうさとびができた	もくひょうにむかって
小3	辻口博啓 (つじぐち ひろのぶ)	スーパーパティシエ物語	ゆめに向かって
小4	谷 真海 (たに まみ)	より遠くへ 谷真海	目標に向かって
小5	大谷翔平 (おおたに しょうへい)	夢を実現するためには	夢をかなえるために
小6	鈴木明子 (すずき あきこ)	自分を信じて 鈴木明子	くじけないで
中1	植松努 (うえまつ つとむ)	「どうせ無理」という言葉に負けない	新しいものを生み出すときに
中2	舘野泉 (たての いずみ)	左手でつかんだ音楽	あきらめない気持ちで
中3～高2	三浦雄一郎 (みうら ゆういちろう)	高く遠い夢	より高い目標を目指して

来週 (10月29日) は漢字検定です。申込をされた方だけです。

ゆめ じつげん 夢を実現するためには

野球選手のおおたにしょうへいさんは、2016年（平成28年）、当時、日本プロ野球最速の球速165キロを記録しました。そして2018年（平成30年）、アメリカ・大リーグの選手となりました。

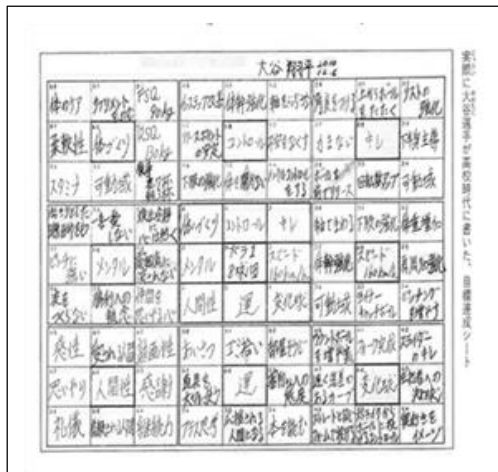
大谷選手は、本格的に野球を始めた小学校3年生のころから、「プロ野球選手になりたい。」と言い続けてきました。中学校時代には、投手として注目を浴びるようになり、1年生のとき、球速130キロを記録しました。「1年で5キロずつ上げて、2年生135キロ、3年で140キロを出そう。」と決意すると、よりいっそう、練習にはげみました。

高校生になり、野球部に入部すると、かんとくから「高校では、1年で10キロずつ上げて、2年で150キロ、3年で160キロを達成しよう。」と持ちかけられました。大谷選手は、この目標をなんとしても達成したいと思いました。

大谷選手が通った高校では、自分たちの夢や目標の実現に何が必要なのかを考えられるよう、「目標達成シート」というものを活用していました。このシートは、中心に夢や目標を書き、それをかなえるためには何をすべきかを、周りに具体的な行動として書きこんでいくものです。大谷選手は当時の夢だった「ドラフト1位で8球団から指名される」をシートの中心に書きました。このように書き出すことで、それまで、ばくぜんと思いがいていただけの夢や目標が、「そこに行き着くためには、どうすればよいのか」という道すじをともなう、くつきりに見えるようになりました。

大谷選手は、シートに自分で書きこんだことを、一つ一つ確実に達成していきました。だれにも負けたくない、必ずプロ野球選手になるんだという強い心と、地道な練習を積み重ねる努力があったからこそ、大谷翔平さんの現在があります。それに加えて、常に目標を明確にし、その目標に向かって、今、何をすればよいのかを具体的に考えて行動することが、大谷選手の活やくのひみつでもあるのではないのでしょうか。

（「道徳の教科書 5年 きみがいちばんひかるとき」より）



今日の人 エジソン（10月18日 「こどものカレンダー」より）

10月18日はエジソンが亡くなった日です。

エジソン（1847年2月11日～1931年10月18日）アメリカの発明家。少年時代から実験が好きで、23才で独立して研究所をつくり、発明に打ち込みました。電話機、蓄音機、映写機、白熱電球、科学全般にわたる発明をし、特許数1300以上もあります。努力家であるばかりでなく、人格者でもあったので、世界の発明王とされています。

エジソンのお母さん（「こどものカレンダー」より）

蓄音機、電灯、電話、映画など私たちが知っている便利な機械をたくさん発明したのはエジソンです。このエジソンは、小さい時、言うことを聞かなくて、先生を困らせたので、とうとう学校に来てはいけなうと言われました。

ところが、前に学校の先生だったエジソンのお母さんは、わんぱくで他の子と違うエジソンの優れたところを引き出すよう、うちで教えました。エジソンが発明の王さまと言われるようになったのは、お母さんのすばらしい励ましがあったためと言われています。